

美術

美術科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、表現方法を創意工夫し、創造的に表現する	造形的な美しさや表現の意図と工夫について考え、豊かな発想と構想を練る、多様な見方や感じ方を深める

	生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	<p>ア 道具の扱い方や技法等の知識が乏しく、用具や素材の適切な表現ができず、構想とのズレが生じ、造形・写実的な表現の未熟な生徒がいる。</p> <p>イ 表現の意図と美しさを関連付けて構想し、配色、形などの表現方法の構想・選択ができない生徒がいる。</p>	<p>ア 課題に対し道具の使い方や工程をわかりやすく説明した短い動画を見る等の鑑賞を行う。また授業のワークシートや定期テスト直し等で知識を深めさせる。制作時には、生徒自らに道具の使い方や技法等を試させながらより良い造形・写実的な表現を見つけさせていく。</p> <p>イ 実際に参考作品に触れ、近くで観察できるようにし、課題に関連した美術作品や日常生活の中にある美しいもの・デザイン性の高いものなどを鑑賞学習に取り入れる。さらに、鑑賞学習の中で、表現の意図や美しさについて追求させる。</p>	毎授業時間内	<p>ア 課題に則した道具などについての動画を見ることで、制作時に生徒自ら道具の使い方や技法等を積極的に試し、工夫して使えるようになった生徒も増えた。また、制作活動や鑑賞により造形・写実的な表現を楽しんでできるようになった。</p> <p>イ 実際に参考作品に触れ、近くで観察することで、課題の意図や美しさと日常生活の中にあるものを関連付けて構想できるようになった生徒が多く見られた。また、鑑賞学習の中で、形や色などを構想できるようになった生徒も多く見られた。今後はさらに構想を具体的に絵や形、文字でも表現できるような学習を行っていく。</p>
第2学年	<p>ア 造形・写実的な表現が未熟なため、適切な用具を選んでいても、適切な表現や応用表現ができず、構想通りに作品を制作できない生徒がいる。</p> <p>イ 造形的な美しさや表現の工夫について構想はできるが、表現・説明することが苦手な生徒がいる。</p>	<p>ア 課題から学ばせたい意図を明確に説明する。また鑑賞を通して道具や素材、技法についてわかりやすく説明した動画を見せ、制作時に、実践させながら、さらに重要なポイントについての解説を行い、練習をさせて技能の向上を促す。</p> <p>イ 鑑賞からより生徒たちの生活に身近な例を選び、生徒自身が関心を持つよう促し、授業のワークシートを通して考えさせたいことを明確に表記する。また、構想を文字や絵を用いてより具体化し説明させ、意見交換や発表をさせることで様々な考え方や意見を共有し、考えを深めさせる。</p>	毎授業時間内	<p>ア 授業の中で課題について考えさせ、表現したいことを絵や文章で説明させることで、適切な用具・表現方法で作品制作に取り組むことができるようになった生徒が多く見られた。今後は個別で対応することで、制作が苦手な生徒に技能の向上を図っていく。</p> <p>イ 鑑賞で生徒自身が関心をもつような題材を学習に取り入れ、考えさせたいことを明確に表記したことで、説明すべきことが理解できるようになり、絵や文字で表現できるようになった生徒が多く見られた。今後は、さらに鑑賞と実践を交えて学習させることで、興味や関心を深めさせ、表現力の向上を目指していく。</p>
第3学年	<p>ア 適切な用具を使っていても、構想に合わせて知識や技術・技法をうまく生かすことができない生徒がいる。</p> <p>イ 構想を練る中で、造形的な美しさや表現の意図について自発的に発想し表現することが難しい生徒がいる。</p>	<p>ア 用具の基本的な使い方について復習させ、さらに応用方法などを技法と関連付けて説明する。また、実践・練習する時間を設け、技術的な感覚を身に付けられるよう指導する。</p> <p>イ 鑑賞学習の中で、普段意識しないような制作過程や興味・関心をもてるような身近な題材を選び、幅広い表現方法の可能性や、想像の幅を広げられる時間を設け、美しさに関連させながら制作の構想について考えさせる。</p>	毎授業時間内	<p>ア 用具や技法等について復習させ、基本的な技能を向上させることができた。応用方法を考えられない生徒がみられたため、今後は用具や技法の効果と参考例をもとに、実践・練習する時間を設け、生徒一人一人の技能の向上を目指していく。</p> <p>イ 鑑賞学習の中で興味・関心をもてるような身近な題材を選び、自発的に発想することができるようになった。今後は、構想したことを簡単な技術だけで表現できることをわかりやすく課題の導入などで明示し、自分が表現したいことを諦めずに行えるよう指導していく。</p>

■「個別最適な学び」と「協動的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について

- ・インターネットを活用した情報の収集・アイデアの構築・制作工程や道具の使い方の確認。【個別・協働】
- ・スライド機能での課題の共有。【個別・協働】
- ・カメラ機能を用いた作品の工程確認や生徒同士の作品写真の共有。【個別・協働】
- ・編集機能を用いたイメージ構成・添削。【個別・協働】

■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について

- ・学習目標や制作期間を明示した制作振り返りシートを毎時間確認・記入させ、自身の能力や目標、進捗の確認をさせる。
- ・鑑賞や参考作品などを通して生徒の興味・関心を促し、簡単な道具の使用法を実践させ、成功体験を増やす。
- ・対話から制作イメージや発想の仕方について考えさせ、その場で実演したり、実践させる。